

もっとやりたくなる

学校や担任が意図し、希望するしないにかかわらず、今学校にはとてもたくさんの体験や見学、外部講師による授業が企画されています。その一つ一つは子供にとってきっと無駄になることはないと思いますが、はたしてこのタイミングで必要なものなのかどうか、担任の目でしっかり確かめておかなければならないと思います。

そして、体験をした、話を聞いた子供の全てがとても興味をもち、心を揺さぶられるということはある得ないと思いますが、実際に体験したりやってみたりすることによって、もっとやりたくなる、知りたくなる子供が一人でも二人でも出てくるとしたなら、その活動は意味のあるものとなることでしょう。私たち大人にとっては、どうに知っていることや体験していることであるとしても、子供にとっては初めての経験であることがほとんどです。指導者の方で子供にとって有益であるという体験を判断してその機会を与えることによって、始めは恐る恐る、渋々であったとしても、やるうちに「こんな世界もあったのか」「これはおもしろいぞ」という気持ちが子供の中に湧いてきたとしたならしめたものです。そこまでは学校や教師の仕事です。さらに続けたいか、もっと調べたいかは、子供に委ねなければなりません。

結局、学校での学習や教師の仕事は、全ての知識や技能を教えきることではなく（身に付けさせることを目指さなければなりません）、もっとやりたくなるような興味をもてることをどれだけ見付けさせてやるかだと思います。一人の子供にとって、一つでも二つでも「うむ、これは」とひっかかるものが出てくるのが大切だと思います。同じ内容であっても子供への提示の仕方によって、そのひっかかりの度合いが違ってくるものもあるでしょう。外部講師の方の話や指導にだけ任せるのではなく、事前の興味の引き方や事後の働きかけ方を工夫するのも私たちの仕事です。

まもなく長い夏休みに入ります。今年の夏も暑くなりそうです。子供たちにとって、やはり自分の時間をたっぷりもてる夏休みは待ち遠しいに違いありません。だからと言って、目的や目標もなく、何もしないでだらだらしているのでは困ります。この夏休みが、何かに夢中になることができる自分を見付ける良い機会になってくれることを期待したいと思います。学校でも、どのような夏休みにしたいか子供たちに考えさせる時間をもつのですが、是非ご家庭でも、素敵な夏休みになるよう会話の中に取り入れていただけたらと思います。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、いつもご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。暑さに十分気を付けてお過ごしください。

(校長 村杉 一也)